

豚革スカートの型くずれにおよぼす型入れ方法の影響

○角田由美子* 今井哲夫** 岡村浩***

(*昭和女大, **都皮技センター, ***昭和女大・院)

目的 前報¹⁾では牛革を用い、型入れ部位と方向を組み合わせたタイトスカートの着用試験およびクリーニング試験を行ない、型入れ方法が型くずれにおよぼす影響について検討した。本報では豚革を用いて同様な着用試験およびクリーニング試験を行ない、最適な型入れ方法について検討した結果をとりまとめた。

方法 試料は豚衣料用スエード革を用い、スカートの型入れ方向はたて（背線に平行）とよこ（背線に垂直）の2方向とし、試料革の肩部と腰部に型入れした。着用試験は20才から24才までの女子5名が行ない、2着のスカートを交互に300時間ずつ着用した。クリーニングは皮革衣料専門のクリーニング店で水洗いを行なったが、洗浄後の仕上げは行なっていない。着用前後およびクリーニング後のスカートについて外観検査を行ない、収縮率、シームパッカリング、ソフト値、KES圧縮特性を測定した。

結果 着用後、型入れ方法にかかわらずスカート丈は収縮し、幅は伸びる傾向が認められた。よこ方向に型入れしたスカートは、たて方向よりもスカート丈の収縮率が大きかった。外観検査の結果、よこ方向の型入れでは型くずれが認められ、さらにシームパッカリングの低下も認められた。これらから豚革の型入れ方向はたて方向が適しているものと考えられる。また、型入れ部位では腰部よりも肩部に型入れした方が変化は大きかった。

着用後のスカートをクリーニングした結果、収縮率の著しい低下が認められたが、これは洗浄後の仕上げを行なっていないためと考えられる。

1)角田由美子、今井哲夫、岡村浩：日本家政学会第46回大会研究発表要旨集 p.210 (1994)